

共演10回目記念・特別コンサート

ウィハン 弦楽四重奏団

with 金澤克史

Wihan Quartet  
with Katsushi Kanazawa



Leoš Čepický  
< 1st Violin >

Jakub Čepický  
< Viola >

Jan Schulmeister  
< 2nd Violin >

Michal Kaňka  
< Cello >

Katsushi Kanazawa  
< Piano >

2019年 10月 8日 (火) 銀座 王子ホール

開演：午後 7 時 開場：午後 6 時30分

(中央区銀座4-7-5 三越裏)

PROGRAM

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 K.414 (ピアノ五重奏版)  
W.A.Mozart : Piano Concerto No.12 in A major K.414 (Piano Quintet version)

ウィハン弦楽四重奏団 Wihan Quartet

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調 作品51  
A. Dvořák : String Quartet No.10 in E-flat major op.51

エルガー：ピアノ五重奏曲 イ短調 作品84  
E.Elgar : Piano Quintet in A minor op.84

※プログラムは変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催：国際芸術連盟

後援：駐日チェコ共和国大使館 日本チェコ協会  
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)

チケット取扱い：

王子ホールチケットセンター 03-3567-9990  
営業時間 10:00~18:00 (土・日・祝日休業)  
<https://www.ojihall.jp/form/ticket.html>

カンフェティチケットセンター 0120-240-540  
営業時間 10:00~19:00 (土・日・祝日除く)  
<http://www.confetti-web.com/>

JILAチケットセンター 03-3356-4140  
営業時間 10:00~18:00 (土・日・祝日除く)  
[http://www.jila.co.jp/?page\\_id=4176](http://www.jila.co.jp/?page_id=4176)

5,000円  
(全自由席・税込)



## ウィハン弦楽四重奏団 Wihan Quartet

レオシュ・チェピツキー Leoš Čepický <1st Violin>  
 ヤン・シュルマイスター Jan Schulmeister <2nd Violin>  
 ヤクブ・チェピツキー Jakub Čepický <Viola>  
 ミハル・カニユカ Michal Kanka <Cello>

ウィハン弦楽四重奏団はチェコを代表するカルテットのひとつである。「ウィハン」の名は、チェコの歴史的名楽団であるボヘミア弦楽四重奏団の創立者「H. ウィハン」の名を冠したものである。メンバーがプラハ芸術アカデミーの学生であった1985年に結成された。2015年で結成30周年を迎えた彼らは母国チェコの伝統を受け継ぐものとして名声を築き上げ、「今日世界で最も優れたカルテットのひとつ」(インターナショナル・レコード・レビュー)と評されるまでになった。

1988年プラハの春国際コンクール第1位入賞を皮切りに、トラパーニ国際室内楽コンクール第1位、大阪国際室内楽フェスタ銅賞等、多くのコンクールで受賞を重ね、91年ロンドン国際弦楽四重奏コンクールでは第1位及び聴衆賞に輝き、審査員長であった故Y.メニューインから激賞された。以後、ヨーロッパにとどまらず、アジア、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド等にも活躍の場を広げ、喝采を博している。95年初来日時の彼らの演奏はその年に来日した海外の著名な室内楽団をおさえて95年度の「マイベストコンサート」(「音楽の友」誌)に堂々1位に推された。

2008年プラハにおいてベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲演奏を果たし、ロンドンのブラックヒースホールにても同様に演奏を行った。そのプラハでの画期的なコンサートが収められたCDとDVDはニンプラス・アライアンスよりリリースされ、多くの称賛を浴びた。また同レーベルより数々のCDがリリースされているが、そのどれもが高い評価を得ている。

ウィハン弦楽四重奏団は今年(2019年)、結成34年目を迎えているが、ここ数年メンバーの交代が相次いでいる。まず結成30周年を目前にした2014年、ヴァイオリン奏者のイジー・ジツクモンドが一身上の都合により楽団を離れたが、この楽団にとって幸運なことに第一ヴァイオリン奏者の息子ヤクブ・チェピツキーがすぐ固定メンバーとして加入した。さらに2017年には、結成以来32年間にわたりこの楽団のベースを支えてきたチェロ奏者のアレシュ・カズブジークも退団し、その後はサポートメンバーが担っている。現在のチェロパートを務めるのはミハル・カニユカ氏で、氏はウィハンと同じチェコの名楽団のブラジャーク・クァルテットのメンバーでもあり度々来日しているの、わが国にもファンが多い。また氏は独奏者としても活躍しており、2つの弦楽四重奏団のチェロ奏者と併せ、現在、休む間もない程の演奏活動が続いている世界的チェリストである。

ウィハン弦楽四重奏団は今回が17回目の訪日で、結成当初からのヴァイオリン奏者2人に、ベテランと若手の低音楽器奏者の2人が新風を吹きこむ団員構成になっている。これまでと違った響き、さらに美しい音色を日本のファンに聴かせてくれるであろう。

<http://www.wihanquartet.co.uk/>

## 金澤克史 Katsushi Kanazawa <ピアノ>

武蔵野音楽大学を経て1984年に同大学大学院修了。在学中にザルツブルクのモーツァルティウム音楽大学に短期留学し、修了演奏会出演。帰国直後にNHK洋楽オーディションに合格し、FM「午後のリサイタル」に出演。また83年に東京文化会館、84年に日本演奏連盟のオーディションに相次いで合格し、本格的に活動を始め、以来今日まで30年以上にわたり地味ながら着実に活動している。

ソロリサイタルは87年に第1回を開き現在まで11回を数える。またピアノ協奏曲は85年に東京交響楽団、86年に広島交響楽団、2回の共演実績があり、2回目の時の指揮者は小林研一郎で演目はモーツァルトの「戴冠式」であった。

90年代に入ってからには邦人現代曲にも積極的に取り組み、この集大成として2002年に「彩響」、04年に「彩響II」の2枚のソロCDを上梓。武満徹、三善晃、北爪道夫、西村朗等、物故された方々と存命中の方々の両方を含み、日本の作曲界の本流に列する作曲家の代表作を網羅したCDで、「レコード芸術」「CDジャーナル」等の専門誌で、特に選曲に対する鑑識眼の鋭さを高く評価された。

今世紀に入ってからにはピアノ五重奏曲を中心とした室内楽を活動の中核に据え、さらに芸域を拡大している。ウィハン弦楽四重奏団とは2003年を手始めに今回が10回目の節目の共演。この度の演目を含めこれまで10曲のピアノ五重奏曲を披露し、その中にはわが国ではあまり弾かれない作品も含まれている。前回(9回目)の共演では「音楽の友」「ショパン」の2誌で絶賛された。「柔らかな音色の金澤と繊細にアプローチするウィハンとが、イメージする世界を共有するパートナー同士で自然に息づきながら温かな流れを紡いでいた。」(「音楽の友」小倉多美子氏)「金澤とウィハンの団員の作品への並みならぬ共感が、自然な音楽的感興の高揚を招き、室内楽の三昧境が達成された。」(「ショパン」高久曉氏)

10回目の今回の共演も大いに期待される。1999年度第5回国際芸術連盟音楽賞受賞。同連盟専門家会員。



・JR有楽町駅下車 銀座口から徒歩7分 ・地下鉄銀座駅下車 A12出口から徒歩1分  
 ・地下鉄銀座一丁目駅下車 9出口より徒歩5分 ・地下鉄東銀座駅下車 A2出口から徒歩2分

with you together

国際芸術連盟

〒160-0022

新宿区新宿2-15-2 岩本和裁ビル 2階

Tel.03(3356)4033 / Fax.03(3356)5780

Mail music@jila.co.jp / Twitter @jila\_music